

令和元年度 入門レベルのための日本語教室 報告書

1. 事業概要

(1)趣旨

堺市では、外国人市民への日本語学習支援は民間ボランティア団体により行われており、外国人市民 15,543 人（令和 2 年 1 月末現在）のうち、延べ 587 人（平成 31 年 4 月現在）が市内 15 か所の日本語教室で日本語を学習している。しかし、この数は外国人市民数の 4% ほどであり、日本語学習を必要としない人がいると考えても少ないと言わざるを得ない。

このような現状から外国人市民の孤立を防ぐためにも、外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こして地域の日本語教室につなぐことが必要であると考え、平成 25 年度より市主催で「入門レベルのための日本語教室」を実施し、本教室で学習を終えた外国人市民を地域の日本語教室につなぐ形で事業を実施している。

同時に本教室を市内で活動する日本語指導ボランティアの研修の場と位置づけ、市内日本語教室で活動するボランティアに入門期の日本語学習者に対する話し方や接し方、学習支援の方法を実践的に学ぶ機会を提供するとともに、本教室で採用しているマスターテキストアプローチ※による指導や場面会話、対話型活動の方法を体験しながら学ぶことによって 1 対複数での日本語学習支援法を習得し、学習者の増加やボランティアの高齢化等でボランティア不足に悩む教室での活用を促す。

また、研修の場はボランティアどうしの横のつながりやプロの日本語教師とボランティアのつながり、行政とボランティアの顔の見える関係づくりの場としても活用している。

※マスターテキストアプローチ

登場人物が話す自分の話（語り文）をマスターテキストと呼び、学習者はそのマスターテキストを聞いて覚え、それをモデルに自分の話をするというもの。マスターテキストには初級の語彙・表現、文型・文法事項が体系的に含まれており、このテキストを覚えれば、同時に文法や語彙の習得もできる。（<http://nej.9640.jp/index.html> NEJ のひろば「これから『NEJ』を使う人のための FAQ」より引用）

(2)実施スケジュール

検討会議を開催して昨年度事業の振り返り及び今年度事業の実施方法等について検討し、検討結果をもとに日本語教室及び日本語指導ボランティア研修を実施する。日本語指導ボランティア研修参加者（アシスタント活動者）の増加及び本教室の指導法の普及を目的にアシスタント募集に先駆けて、「日本語指導ボランティアスキルアップ研修」を実施する。すべての事業終了後に総括を行う。

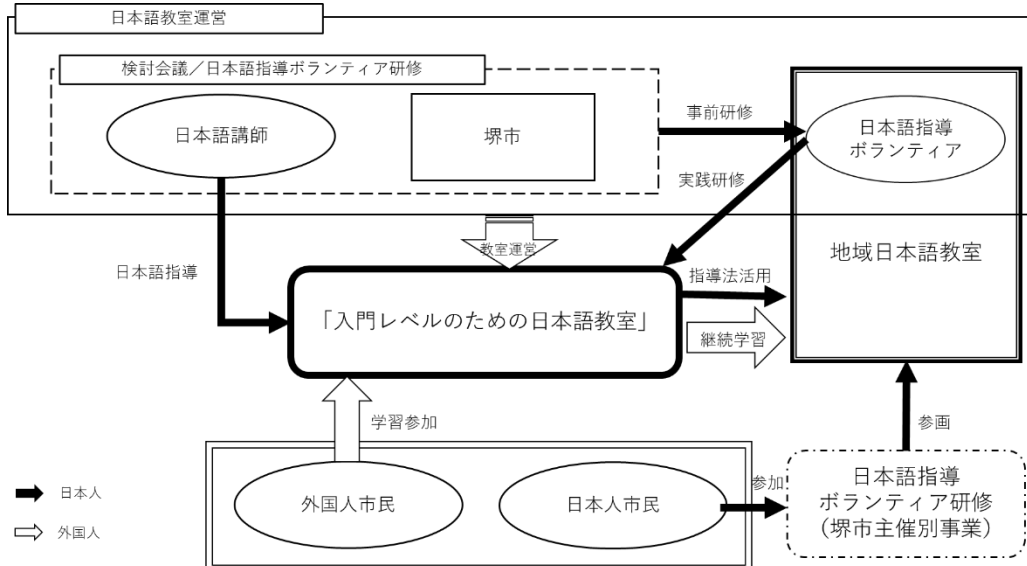
また、同時に本事業で作成・使用している『つながる日本語』を地域日本語教室に普及すべく教材の体裁を整えるなどの作業を進める。

<実施実績>

	開催日時	項目	内容
1	4/18 13:00～15:00	第 1 回検討会議	1.今年度の実施にかかる検討 2.『つながる日本語』の普及にかかる検討
2	5/22 14:30～16:30	第 2 回検討会議	1.日本語教室内の配付資料の確認 2.『つながる日本語』の体裁を検討し、作業スケジュールを決定
3	6/19 14:30～16:30	第 3 回検討会議	1.『つながる日本語』の体裁の決定
4	7/7 13:30～16:00	日本語指導ボランティアスキルアップ研修 「アシスタント募集及び指導	1.「入門レベルのための日本語教室」採用の対話型活動や場面会話など 1 対複数での指導法に関する研修

		法の普及」	2. 「入門レベルのための日本語教室」の内容及びアシスタント活動の案内
5	8/20 14:00～16:00	日本語指導ボランティア研修 「第1回アシスタント事前研修」	1. 「入門レベルのための日本語教室」の概要 2. 使用テキストの構成及び使い方 3. アシスタント活動の概要 4. 「やさしい日本語」について
4	8/27 14:00～16:00	日本語指導ボランティア研修 「第2回アシスタント事前研修」	1. アシスタント活動の具体的な内容と留意点 2. 『場面の日本語』 ロールプレイの準備
5-1	9/6～11/8 火曜・金曜 14:00～16:00 (全15回)	日本語教室	火曜日：『つながる日本語』 金曜日：『場面の日本語』/トピック会話
5-2	9/6～11/8 火曜・金曜 13:50～16:20 (全15回)	日本語指導ボランティア研修 「実践研修－授業参加－」	火曜日：『つながる日本語』 →マスターテキストアプローチによる教室型レッスンの補助、練習相手 金曜日(前半)：『場面の日本語』 →場面会話のロールプレイ、補助、及び練習相手 金曜日(後半)：トピック会話 →対話型活動の実践
6	12/12 14:30～17:30	総括	1. 事業振り返り 2. 『つながる日本語』の手引き作成にかかる検討

(3) 事業スキーム



(4) 事業運営体制と役割

＜検討会議・日本語指導ボランティア研修運営メンバー＞

役割	名前
講師 ・ 実践研修	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 澤田 幸子
講師 ・ 実践研修	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 矢谷 久美子
講師 ・ 事前研修 ・ 実践研修	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 正多 宏美
講師 ・ 事前研修 ・ 実践研修	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 藤井 和代
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 主幹兼交流協力係長 韓 昌一
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 主査 栗谷 康二
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 瀬川 万有美

＜日本語教室運営メンバー＞

役割	名前
講師	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 澤田 幸子
講師	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 矢谷 久美子
講師	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 正多 宏美
講師	一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語講師 藤井 和代
アシスタント	市内日本語教室で原則1年以上の経験を持ち、事前研修を受けた者 (15名)
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 主幹兼交流協力係長 韓 昌一
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 主査 栗谷 康二
事務局	堺市文化観光局国際部国際課 瀬川 万有美

2. 日本語教室について

入門レベルの日本語能力の人々が、地域の人たちとの人間関係を構築できるようになること、及び地域社会に踏み出せるようになることを目的に日本語教室を実施した。また、課外授業として、ゴミの出し方講習会及び防災講習会、市内見学会を実施した。

なお、日本語教室には市内日本語教室で活動するボランティアが研修の一環として毎回7人程度アシスタントとして参加した。

(1) 実施実績

＜日本語教室＞

開講日時：令和元年9月6日（金）～11月8日（金）

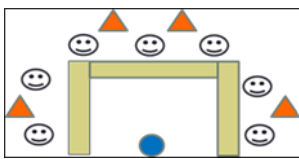
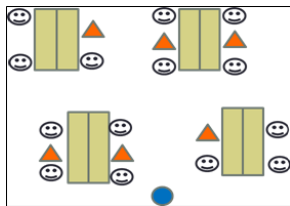
毎週火曜・金曜（10月1・4・22・25日を除く） 14:00～16:00 （全15回）

開講場所：堺市立国際交流プラザ 6F 大会議室
 受講者数：22人（国籍等詳細は、2(3)参照）

<その他行事>

イベント名	ゴミの出し方講習会	防災講習会	市内見学会
実施日時	10月4日（金）	10月25日（金）	11月15日（金）
参加者数	14人	17人	11人

(2) 授業の内容 ※全体カリキュラムは、資料参照

	火曜日	金曜日（前半）	金曜日（後半）
授業形態	教室型レッスン	グループ型レッスン	グループ型レッスン
			
	(凡例) ● 講師【1人】 ▲ アシスタント【6~7人】 😊 学習者【22人】		
テキスト	『つながる日本語』 (堺市作成)	『場面の日本語』 (堺市作成)	テキストなし
テーマ	自己表現のための日本語 ～習得～	地域社会へ踏み出すための 日本語（場面会話）	自己表現のための日本語 ～実践～（トピック会話）
内容	各課の登場人物の語り文を 理解して覚え、その語り文を 自分に置き換えて話せるように 練習する。同時に、語り文に出 てくる文法事項を習得する。	「駅での会話」や「病院での 会話」など、日常生活で出会う 場面を使って会話練習を行う。 また、最後に一人ずつロール プレイを行う。	学習者とアシスタントの混成 グループになり、火曜日に学んだ 内容と連動したテーマで日本語 による交流を行う。

(3) 学習者内訳

国籍

- ベトナム
- 中国（台湾含む）
- アメリカ
- インドネシア
- オーストラリア
- セルビア
- トルコ
- ニュージーランド



年代

- 20代
- 30代
- 40代
- 50代



滞日年数

■～半年 □～1年 ▨～3年 ▩～5年



仕事の有無

■なし（主婦・主夫含む） □あり ▨学生



3. 日本語指導ボランティア研修

入門レベルの日本語能力の人々が学ぶ日本語教室を研修の場と位置づけ、入門期の日本語学習者に対する話し方や接し方、学習支援の方法を実践的に学ぶ機会とした。また、本教室で採用しているマスターテキストアプローチによる指導や場面会話、対話型活動の方法を体験しながら学ぶことによって1対複数での日本語学習支援法を習得し、学習者の増加やボランティアの高齢化等でボランティア不足に悩む教室での活用を促すこともめざした。

(1) 実施実績

開講日時：

<a. 事前研修>

令和元年8月20日（火）、令和元年8月27日（火）14:00～16:00（全2回）

<b. 実践研修－授業への参加－>

令和元年9月6日（金）～令和元年11月8日（金）

毎週火曜・金曜（10月1・4・22・25日を除く）のうち、指定された6日程度

（各人6回程度。各回7人程度。原則として、同一週の火曜日と金曜日は連続参加）

13:50～16:20（打ち合わせ・振り返りの時間を含む）

開講場所：堺市立国際交流プラザ 大会議室

受講者数：15人（市内日本語教室等で活動している日本語指導ボランティア）

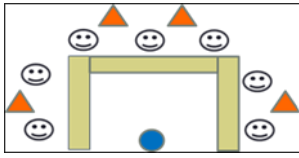


(2) 研修内容

<a. 事前研修>

	内容
1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・「入門レベルのための日本語教室」の概要 ・使用テキストの構成及び使い方 ・アシスタント活動の概要 ・活動時のコミュニケーション手段「やさしい日本語」
2回目	<ul style="list-style-type: none"> ・アシスタント活動の具体的な内容と留意点 ・『場面の日本語』のロールプレイの準備

<b. 実践研修－授業への参加－>

1. 打ち合わせ（10分） その日の授業ポイントを確認
2. 授業参加（2時間） 講師の指示を受けてアシスタント活動
3. 振り返り（20分）
 - 担当学習者の様子を全体で共有
 - 活動中の疑問点等を講師に質問
 - 引き継ぎシート記入

曜日	配置	内容
火曜日		<ul style="list-style-type: none"> 学習者の後ろに待機し、講師の指導法を観察しながら、入門期の学習者に対する話し方や接し方、マスターテキストアプローチによる指導法を学ぶ。 戸惑っている学習者の補助や学習者同士の練習の補助、練習相手をしながら、学習者のことばの習得過程を学ぶ。
金曜日 (前半)		<ul style="list-style-type: none"> 「場面会話」の進め方や練習の仕方などを学ぶ。 グループ内で学習者の補助や練習相手をし、学習者にとって難しいことは何か、どうすれば分かりやすくなるのかなどについて学ぶ。
金曜日 (後半)		<ul style="list-style-type: none"> 講師の決めたテーマに沿ってグループで交流を進めることにより、入門期の学習者との対話型活動の方法や留意点を学ぶ。 グループのアシスタントのうちの一人名は、交流をファシリテートする。

(凡例) ●講師【1人】 ▲アシスタント【6～7人】 😊学習者【22人】

(3) アシスタント内訳

アシスタント経験有無

■なし □あり



ボランティア経験年数

■～1年 □～3年 ▨～5年 ▩～10年



4. 成果と課題

(1) 日本語教室

今年度の日本語教室には8ヵ国、22人が参加した。そのうち、18人が最後まで継続し、13人が80%以上の出席率で修了した。また、最終アンケートに回答した15人中12人が地域の日本語教室で学習を続けると回答した。外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こし、地域につなぐという目的を達成できたと考える。

しかし、一方で参加者の多くが日本語学習経験のある人であり、全くの入門レベルの学習者は少なかった。さまざまな媒体を通して周知を図り、多くの学習者が集まるようになったが、本来の対象者である「日本語能力が入門レベルの外国人市民」への周知にはまだ課題があると言える。周知方法の更なる検討を行いたい。

一方、課外授業に関しては、昨年度実施した「防災講習会」「市内見学会」に加え、「ゴミの出し方講習会」を実施した。講習会は、それぞれ担当課の職員に来てもらい、通訳を

入れて実施した。外国人市民が必要な知識を得られるだけでなく、担当課の職員に地域に住む外国人市民の存在を知ってもらう効果も期待できる。今後も必要な講習を検討し、実施していきたい。

また、市内見学会は、数人のアシスタントも参加し、公共交通機関を使って実施した。住んでいる地域のことを知るとともに、参加者同士の交流の場、見学した施設の人々との触れ合いの機会とすることができたと考える。

(2) 日本語指導ボランティア研修

15人がアシスタントとして参加し、最終アンケートに回答した12人中11人が、「アシスタントとして活動して満足」、1人が「やや満足」と答えた。また、活動を通して、「プロの先生の指導法が学べた」、「『やさしい日本語』やグループ交流について学べた」、「学習者との交流で多くのことを学べた」などの意見があり、地域で活動するボランティアに日本語能力が入門レベルの学習者への接し方や1対複数の指導法などを学んでもらえたと考えている。

しかし、一方でアシスタント参加者は定員の20人を下回り、参加者のうち経験者が9人、未経験者が6人であった。また、アシスタントの増加をめざして実施した「日本語指導ボランティアスキルアップ研修」をきっかけに参加したアシスタントは0人だった（[資料](#)3.2参照）。継続して参加するアシスタント経験者の存在は、未経験者をリードしてくれる存在であり、また、地域の日本語教室に学習者をつなぐ際にも大きな役割を果たしているが、アシスタント活動の場が実践研修の場であることから考えると、未経験者の割合が増えることが望ましい。

来年度は、後述の4.(3)にあるとおり、本事業で作成・使用している『つながる日本語』を地域日本語教室に普及すべく取り組みを進める予定である。教材の普及事業を進める中で地域日本語教室のボランティアにアシスタント活動を周知し、未経験者の増加につなげられるよう検討したい。

(3) その他

授業の実施と並行して、地域日本語教室に本事業で作成・使用している『つながる日本語』を普及していくことを念頭に、教材の体裁を整えるなど作業を進めた。

『つながる日本語』は、マスターテキストアプローチによる指導法を採用した教材で、ほとんど日本語を話せない外国人市民が、地域の人々となつながりを持って暮らしていけるようなテーマを用いて作成している。多くのテキストで採用されている文法積み上げ式とは異なる手法だが、参加アシスタントから教材やその手法が、所属している日本語教室でも活用できそうだと支持を得られるようになったことから、地域日本語教室に一つの選択肢として提案できればと、普及に向けた取り組みを進めることとなった。

今年度は教材の体裁を整え、手引き及び副教材の作成をしたことから、次年度は、完成した教材をもって本格的に地域日本語教室への普及に向けて取り組んでいきたい。

資料

1. 日本語教室カリキュラム

	日にち	テーマ	Can-do
1	9/6(金)	初日ガイダンスと簡単な自己紹介	—
2	9/10(火)	『つながる日本語』 —1課 はじめまして—	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介ができる ・簡単に家族が紹介できる
3	9/13(金)	『場面の日本語』 —今日は休みます—	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の相手呼び出してもらうことができる ・理由を言って、欠席の連絡ができる
		トピック会話 —わたしはこんな人—	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介。クラスメートに自分を知ってもらう
4	9/17(火)	『つながる日本語』 —2課 目玉焼きが好きです—	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな食べ物、スポーツなどが言える
5	9/20(金)	『場面の日本語』 —京都までいくらですか—	<ul style="list-style-type: none"> ・行先までの値段や乗り場が聞ける ・乗る電車を確認することができる
		トピック会話 —わたしの好きな物—	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、音楽、アニメなどいろいろな分野で好きなものを話す
6	9/24(火)	『つながる日本語』 —3課 毎朝、6時半に起きます—	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活を時間の流れに沿って言うことができる
7	9/27(金)	『場面の日本語』 —これをください—	<ul style="list-style-type: none"> ・売り場の場所が尋ねられる ・サイズや色の希望が言える ・店員のセールストークをうまく遮ることができる
		トピック会話 —わたしの1日—	<ul style="list-style-type: none"> ・起きる時間や寝る時間、休みの日にする事など、身近な生活について話す
—	10/1(火)	休み	
—	10/4(金)	ゴミの出し方講習会	
8	10/8(火)	『つながる日本語』 —4課 友達と晩ご飯を食べました—	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な感想が言える
9	10/11(金)	『場面の日本語』 —ここに行きたいんですが—	<ul style="list-style-type: none"> ・路上で行き先を伝え、道を尋ねることができる ・確認しながら相手の説明が聞ける
		トピック会話 —店—	<ul style="list-style-type: none"> ・よく行く店、〇〇を買う店、食事に行く店などについて話す
10	10/15(火)	『つながる日本語』 —5課 いっしょに見に行きませんか—	<ul style="list-style-type: none"> ・誘いを受けて、時間や会う場所を決めることができる ・相手の申し出を辞退することができる
11	10/18(金)	『場面の日本語』 —かばんを忘れたんですが—	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物を届け出ることができる ・物の特徴を簡単に説明することができる。
		(交流会)	—
—	10/22(火)	休み	
—	10/25(金)	防災講習会	
12	10/29(火)	『つながる日本語』 —6課 買い物に行きました—	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の様子が描写できる ・物の特徴が言える
13	11/1(金)	『場面の日本語』 —どうしましたか—	<ul style="list-style-type: none"> ・受付で初診の手続きができる ・症状が簡単に説明できる
		トピック会話 —買い物—	<ul style="list-style-type: none"> ・レシートを使って、買ったものや食べたものなどについて話す

14	11/5(火)	『つながる日本語』 -7課 ベトナムに住んでいます-	・家族の仕事や性格、特技等が言える
15	11/8(金)	トピック会話 -家族-	・家族の写真やファミリーツリーを見ながら、家族について話す
		発表会・修了式	-

2. 学習者アンケート

(1) 初回アンケート (21 名分)

1. 「入門レベルのための日本語教室」をどのようにして知ったか

- ・ 人から聞いた

友だちから	家族から	学校・日本語教室の先生から	その他
3	3	5	9

(その他) 会社・職場 (5) 市役所(1) 図書館 (1) 国際交流プラザ (2)

- ・ チラシを見た

市役所・区役所	病院	教会	店	その他
2	0	0	0	0

- ・ インターネットを見た

堺市 HP	その他
4	2

2. 日本語教室に参加した理由

日常生活に 必要だから	仕事を見つけ たいから	会社や学校で 必要だから	家族や友達にすすめ られたから	日本人と交流 したいから	その他
17	4	9	5	11	1

(その他) 言葉の勉強が趣味

3. 日本語が話せるようになったら、いつ・どこで・誰と話したいか

- ・ 毎日の生活で

家族と	近所のひと	その他
12	16	5

(その他) 仕事で (1) 日本人と話したい (1)

- ・ 町で

人に道を尋ねるとき	買い物をするとき	電車・バスに乗るとき	その他
17	16	13	4

- ・ 会社で

同僚と	上司と	その他
13	9	1

- ・ (自分の) 学校で

先生と	先輩と	友だちと	その他
12	10	11	1

- ・ (子どもの) 学校で

先生と	友だちと (子どもの友達の母親など)	その他
10	8	1

- 市役所で

住民票や証明書などをもらう時	子どもの保育所や学校の申込の時	健康保険や税金などの相談をする時	その他
15	12	15	6

- 病院で 13
- その他 2

(2)最終アンケート (15名分)

1. 授業の回数 (15回) はどうだったか

もっと多い方がよかった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよかった	無回答
9 100回 (1)、20回 (3)、30回 (1)	5	0	1

2. 授業は、1週間に2回だったが、どうだったか

もっと多い方がよかった	ちょうどよかった	もっと少ない方がよかった	無回答
3 1週間に3回 (2)、4回 (1)	11	0	1

3. 火曜日と金曜日の午後2時～4時は、参加しやすかったか

はい	いいえ
13	2

4. 授業に参加しやすい曜日と時間帯

平日午前	土曜日午前	日曜日午前
6 (10-12(1))	4 (9-11(1))	3 (8-12(1))
平日午後	土曜日午後	日曜日午後
9 (14, 12-16, 14-16(各1))	6 (14-16(2))	4 (12-17, 14-16(各1))
平日夜	土曜日夜	日曜日夜
5 (18-20(1))	2 (19-21(1))	3 (18-21(1))

5. 「日本語教室」に参加してどうだったか

良かった	まあまあ良かった	悪かった
15	0	0

6. 5の答えの理由

楽しかった	友達ができた	日本人とたくさん話せた	授業の内容が良かった	日本語が前より分かるようになった
14	10	14	14	13
楽しくなかった	授業がよくわからなかった	もっとたくさん話したかった	授業の内容が良くなかった	その他
0	0	2	0	0

8. 教科書について

(1-1) 教科書『つながるにほんご』はどうだったか

やさしかった	少しやさしかった	ちょうどよかった	少し難しかった	難しかった
1	2	12	0	0

(1-2) 教科書『つながるにほんご』で、1回に勉強することばや文法は少なかったか、多かったか

少なかった	少し少なかった	ちょうどよかった	少し多かった	多かった
0	3	12	1	0

※ちょうどよかった/少し少なかったの複数回答1

(2-2) 教科書『ばめんのにほんご』でどの場面が役に立つか（場面の順位づけ）

①今日は休みます	②京都までいくらですか	③これをください
1…3人、2…2人、3…1人、 4…2人、5…1人、6…5人、 記載無…1人	1…1人、2…1人、3…5人、 4…3人、5…4人、6…0人、 記載無…1人	1…2人、2…0人、3…1人、 4…4人、5…4人、6…4人、 記載無…0人
④ここに行きたいんですが	⑤かばんを忘れたんですが	⑥どうしましたか。
1…3人、2…2人、3…2人、 4…3人、5…3人、6…1人、 記載無…1人	1…2人、2…4人、3…3人、 4…1人、5…1人、6…4人、 記載無…0人	1…6人、2…5人、3…2人、 4…1人、5…1人、6…0人、 記載無…0人

(2-2) ①～⑥以外で、勉強したい場面があるか

タクシーに乗って 行き先を言う	銀行でお金をおろす	市役所の受付で 窓口を尋ねる	レストランで注文する
7	10	10	11
出前を頼む	美容院で髪を切る	その他	
5	8	3	

(その他) スーパーでの会話 (2)、新幹線の切符を買う (1)

9. 日本語教室で勉強した日本語を使って、実際に日本人と話したか

はい	いいえ
14	1

はい → 誰とどのような場面で話したか

家族と	近所の人と	友達と	会社で同僚と	会社で上司と
5	8	5	5	4
子供の学校で先生と	欠席の連絡をする時	電車・バスに乗る時	買い物をする時	人に道を尋ねる時
2	2	7	13	8
病院で	郵便局で	市役所で	その他	
4	5	4	2	

いいえ → その理由

機会がなかった	機会があったが、話せなかった	まだ自信がない	その他
0	0	1	1

(その他) まだ、レベルが低いから

10. 今後、市内の日本語教室で勉強するか

はい	いいえ	わからない
12	2	1

11. その他、感想や意見

- すばらしい。皆さんとても助けてもらいました
- みなさま、ほんとうにありがとうございました。
- 良い時間でした。ありがとうございました。
- たのしかったです。

3. アシスタント最終アンケート（12名分）

1. この日本語教室のことを知っていたか

何回か参加している	今年初めて参加した	知らなかった
8	1	3

2. アシスタントとして応募した動機（複数回答可）

広報	チラシ	スキルアップ 研修	経験者から 聞いた	継続して 学びたい
4	1	0	0	6
授業を見たい	場面会話を 学びたい	グループ交流 を学びたい	その他	
8	3	6	2	

その他

- 学習者にレベル差がある場合の教え方を知りたかった。
- 日本語ボランティアの活動中に勧誘があったので。

3. アシスタントとして参加してみてもうどうだったか

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
11	1	0	0	0

【評価の理由】

満足

- 数多くの外国人と接することができた。
- いろいろ学ぶことが多かった。
- プロの先生の教え方は非常に参考になった。
- 「つながる日本語」と「場面会話」が繋がっており、新しい教え方で大変勉強になった。
- 入門レベルの外国人には、アクセントにこだわらないほうが効率があがること、「先生 VS 生徒」でなく「おともだち」感覚が必要だということが分かった。
- 対話形式になっている学習方法を学べて良かった。
- 繰り返すことで言葉をなじませることが大事だとわかった。
- 他のアシスタントの方の取り組み方や学習者とふれあうことが出来て成果があった。
- 「やさしい日本語」の使い方とグループ交流の方法を学んだ。
- プロの先生の指導法が学べた。
- 生徒の皆さんとの交流で多くのことを学べた。

やや満足

- 学校教育とは違って実践生活で身につけられる学習方法やアプローチの仕方など、初めてで学びがあった。

4. 授業やテキストについて

(4-1) 『つながる日本語』(火曜日の授業) の内容や進め方はどうだったか

よかった	どちらともいえない	よくなかった	無回答
12	0	0	0

【評価の理由】

よかった

- 出来る人には少し物足りないかもしれないが、対象が「入門レベルの日本語」なので、丁寧で良かった。
- 日常的に必要な会話だったから。
- 絵教材により日本語との対比がはっきりし、それによって日本語がスムーズに発話できるようになっているので覚えやすいと思った。また、発話の中に文法事項も盛り込まれており、応用できると思った。
- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- 繰り返しの練習で発音の矯正も出来て大事な表現力も培われる。
- 日常生活にそった内容でとても良かった。
- 「あたらしいことば」が絵で理解出来ること、スクリーンの画面が充実したことは、学習者がことばやストーリーをイメージしやすく、よく理解出来たと思う。
- 同じ文を何回も言ってもらうのは、初めのうちはそこまでしつこく繰り返しやらなくてもいいのではないかと思っていたが、基礎をしっかりと習得することが大切だと思えるようになったので、よいことだと思う。
- 生活者が声をかける時の「ちょっと」とか「すみません」とか「じゃ」とか日本語特有の声掛けが理解できやすいのではないか。わかりやすいのではないかと思った。
- 繰り返して勉強することにより理解できたと思う。
- どの生徒も習得可能だと思った。

(4-1-1) 『つながる日本語』やその活動方法は、今後の自身の教室活動に活かせそうか

はい	いいえ
11	1

【その理由】

はい

- 私の教室は『みんなの日本語』を使っている。パターンのには『つながる日本語』のように文型横断的で現実味のある文になっていないので違うが、『みんなの日本語』の会話の箇所を少しできればと思う。(今はとばしている。)
- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- 異国に住み、その場で意思疎通ができる方が一番だと思うから。
- 入門レベルの人に教える時に役に立つと思う。
- 指導法のスキルが知れた(得られた)。

いいえ

- 私は小学生や中学生相手に、子どもたちはもう日常言語学習ができています。

(4-2) 『場面の日本語』(金曜日前半の授業) の内容や活動はどうだったか

よかった	どちらともいえない	よくなかった
11	1	0

【評価の理由】

よかった

- 表現することで自分の言いたいことが言えるようになる。
- 外国人にとって身近な会話を覚えられる。
- 始めにボランティアによる実場面の演技により、日本語と具体的な場面が一致すると思う。また、学習者が日本語で演じることにより、実際の日常の場面でそのまま使える様になっている。
- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- 学習者の日常生活に起こり得る場面の練習ができてよいと思う。
- 日常生活で応用が可能になるのでよかったと思う。
- どの場面も生活の中で誰もが体験することなので、良かったと思う。
- テキストの内容や絵が毎年少しずつ変わって行って楽しい。”
- 具体的な色々な場面をとりあげていて良かった。
- 日常生活に即した場面で、内容は理解できたと思う。

どちらともいえない

- 日本語を少し学んでいる生徒には、少し易しすぎるのではないか。また、日本人のセリフも分かって言えればより良いのではないか。

(4-2-1)『場面の日本語』やその活動方法は、今後の自身の教室活動に活かせそうか

はい	いいえ
10	2

【その理由】

はい

- 役に立つから。
- グループレッスンで日本語ボランティアが複数人で演技する環境にはなっていないので、同じ様にすることは難しいが、『みんなの日本語』練習Cで学習者どうしの発話練習を場面の絵を見せてしている。
- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- そうしたいと思うが、『みんなの日本語』を教材に使っているので難しそう。
- これまでのところ、活用していないが、活用できたら楽しいだろうと思う。

いいえ

- ほぼマンツーマンでやっており、習熟度やテキストも違うので、今活かすところまでいかない。
- 私は小学生や中学生相手に、子どもたちはもう日常言語学習ができています。

(4-3)トピック会話（金曜日後半の授業）の内容や活動はどうだったか

よかった	どちらともいえない	よくなかった
12	0	0

【評価の理由】

よかった

- 学習者、ボランティア間のコミュニケーションが取りやすくなる。
- 話し合うテーマに沿った材料の資料があるので、話の内容がまとまりやすい。
- 大人数の場で話す事が若干消極的な人も、小グループでは積極的に自分の事を話せる人がいるので良いと思う。
- 火曜日の『つながる日本語』で学んだことを自身に置き換えて話すので、良い練習になると思う。

- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- トピックのみに関わらず学習者の発話が増えた。
- 色々な話題が出て、知らなかった事も知りえたりした。
- 自分の言いたいことを自分の言葉で伝えようとする訓練になり話すことへの自信となると思った。
- 初めころは緊張してあまり話せなかった人も、日本語がわからないところは身振りやまた絵を描いたりなどしてコミュニケーションがとれるようになっていったのはすごいと思った。
- 具体的で良いと思う。
- グループの中で学習者のレベルの差があったが全員が協力して会話できた。

(4-3-1) トピック会話の活動方法は、今後の自身の教室活動に活かせるか

はい	いいえ
9	3

【その理由】

はい

- 身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得した。
- 日常生活をより知るチャンスになるのではないかと思う。
- 外国人と話すのが楽しいので、活かせるようにしたい。

いいえ

- 私の教室は『みんなの日本語』を使用し、文型の易しいものから難しいものをグループ分けしたステップアップ方針のため、時間的に若干難しい。
- ほぼマンツーマンでやっており、習熟度やテキストも違うので、今活かすところまでいかない。
- 私は小学生や中学生相手に、子どもたちはもう日常言語学習ができています。

5. アシスタントとして参加してこの教室についてどう思ったか

(5-1) 学習者にとって

有効である	有効ではない
12	0

(5-2) アシスタントにとって

(5-2-1) 指導法や支援法などを学ぶ場となる

なる	ならない
12	0

(5-2-2) 情報交換の場となる

なる	ならない
10	2

(5-2-3) プロの日本語教師とのつながりの場となる

なる	ならない	無回答
9	2	1

6. アシスタント活動を勧めたいと思うか

はい	いいえ
12	0

【その理由】

はい

- いろいろなプロの日本語指導者の授業を見ることができる。
 - 初心者と知り合う機会だから。
 - 個々のボランティアは、1対1が多いと思うが、これから学習者が増えていく。その際、このような日常生活に密着した1対複数の教え方は、これからの日本語ボランティア活動にとって、とても大切な手法であると思う。
 - 入門レベルの外国人には、アクセントにこだわらないほうが効率があがることや、「先生 VS 生徒」でなく「おともだち」感覚が必要だということがわかったから。また、身のまわりで実際に起きていることが教材として登場しており、まずは、この進め方だと納得したから。
 - いい勉強になる。
 - 対複数の教え方を体験すると「こうすれば学習者は理解しやすいのでは」ということがわかるヒントになるから。
 - 自分のためにもなるし、何より楽しいので勧めたい。
 - 渡日される方が今後も大幅にみこまれるので、いろんな方がその手法に興味をもったり学ばれる機会になるから。
 - プロの講師の授業やグループ交流の方法を学ぶことができる。
 - 自己研修の場となる。
7. アシスタント増のために、どのような工夫が必要か。
- アシスタントの教務内容の明確化
 - 今回及び過去に参加してもらったボランティアに口コミをお願いする。
 - 日本語ボランティア教室のキーマン（主催者）に堺市より広報し、日本語ボランティアに参加を促してもらう。
 - 同教室の年間回数を増やす。内容は現行で良い。
 - この様な場がある事を知らない人が多いと思う。各教室からも広報して頂いたらいいのではないかな。
 - 外国人に日本語を教えるというだけで、ハードルが高い気がする。英語を含め、外国語がしゃべれなくてもボランティアができることをアピールすればいいのではないかな。
 - 日本語教室のボランティアさんに実施した結果や成果の情報発信をする。
 - 広く宣伝する、勧誘することが大切だと思う。
 - 広報などで働きかける。
 - 自治会などに広く告知する。
 - 普段の活動では経験できない勉強ができる。
 - 日本語指導の必要性の啓発と共に参加者への啓蒙。
8. 事業全体を通じた意見や感想等
- 参加者の日本語レベルにバラつきがあるので、グループ分けも必要ではないかな。
 - 災害、防災に関する関心が高いようなので新しいテーマとしてテキストに取り入れるのも良いかなと思う。（基本的な簡単なもの）
 - 大変好ましい催しだと思う。
 - 今後、各教室で使う場合は、絵付きの教材になれば使い易くなると思う。
 - 私が参加している学習会（とが交流会）の中国人が2回目を希望したら断われたとがっかりしていた。同教室の年間回数を増やす（内容は現行で良い）方策で2回目以

上の参加も OK にする方策を検討してください。

- 日本語が中程度出来る外国人にもアシスタントに入ってもらえば、本当に初心者でない人には分からない部分を母国語で言ってもらいと意味がのみ込めるのではないか。
- 平日の昼間だと参加者もボランティアに限られると思う。外国人の受け入れを本格的にするには、夜間中学校的なものをもっと増やすなど、行政の抜本的な改革が必要。
- 今後、希望する学習者が増加すると予測される。場所の広さや実施回数の検討が必要かと思う。
- 先生方や担当の方々の企画、準備、運営など、大変だろうとは思いますが、これからも毎年続けていってください。
- 学校などに通学されている生徒、児童はまだ学ぶ機会があるが、保護者の方などが生活を優先して（当たり前のことかもしれないが）、なかなか日本語を習得されるのが厳しい状況である。なんとか広くつながってほしいと願うばかりだ。
- 限られた時間内で行うため、授業内容には限りがあると思うが、外国人のために継続していただきたいと思う。